

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	令和3年10月16日	外部評価結果確定日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4291500058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和3年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールは天井が高く開放的な造りになっている。玄関を出ると目の前には青い海が広がり、佐世保や福岡を結ぶフェリーが港を出入りする様子も見られる。遠くに五島列島の島々を望め、美しい朝日を拝むことも出来る。
基本理念である『笑顔のたえない楽しく暖かい家』を念頭に置き、その実現に向けて職員は協力し努力している。
地域柄、ご利用者様、ご家族、地域の方、職員が知り合いや顔馴染みであることが多く、親しみやすい雰囲気となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念である『笑顔のたえない楽しく暖かい家』に基づいて、家族感のある家庭的な環境作りの実現に努めており、所在する地域上の特色もあり、職員やご利用者様の関係性は非常に良好である。職員は、日々の料理や掃除、洗濯など家庭的な作業をご利用者様と一緒にすることがあるが、地域の先輩であるご利用者様に対して、尊厳とプライバシーをもって日々接している。またご家族に対して、ご利用者様の写真を付した『暖家だより』を送付し、状況報告を毎月行うことで、その関係づくりにも努めている。新型コロナウイルスの影響による制限はあるものの、今できることを精一杯やり遂げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で実践が難しいところもあるが「笑顔のたえない楽しく暖かい家」が実現できるよう努めている	創立時、職員全員で考案した理念である「笑顔のたえない楽しく暖かい家」は、朝礼時に共有されている。レクリエーションが豊富に行われている等、日々の現場においても、職員全員にその理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会制限、外出自粛が続いており以前のような交流は難しい状況にあるが、近所の方から花や野菜の差し入れがあったり、敬老の日には毎年小学校の児童からメッセージカードが届いている。	近隣小中学校との交流会や地域の方々とのクリスマス会等行われていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、現在は行われていない。感染終息後の地域交流再開が一早く行われることを望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室などは開催していないが相談があればアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は概ね2ヶ月に1度開催しているが感染症対策として書面開催になっている。一方的な報告のみで終わらないよう目標に掲げていたが実現できていない。	ご家族代表者や地域の方々、行政職員を含め多数の参加者によって運営推進会議が行われ、会議では直近事業の報告をしている。日頃から地域密着型運営に努めているため、会議の円滑化が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情や取り組みは運営推進委員会での報告が主となっている。相談や問い合わせにはすぐに対応して頂いている。	地域的特色もあり、行政担当者との連携が非常に良好なため、新規ご利用者様の入所手続きなどスムーズに行われている。その他、現場における事故を報告・共有することでその関係性強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を3ヶ月に1度開催しており、資料を参考に具体例を挙げて確認に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会では、他事業所で身体拘束が問題となったニュースや事例を取り上げて、その原因や解決策を議論している。夜間帯など転倒リスクが比較的高くなる時に限り、必要に応じて感知器を使用しているが、現在使用はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会においてどのような行為が虐待にあたるか確認し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会が持てるよう計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設利用開始前に面談や施設見学をして頂き、不安が軽減できるよう努めている。契約時には重要事項説明書を用いて説明し納得、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会同様、家族会も書面開催となっており、面会も制限が続いていることから意見や要望を聞く機会は減っている。暖家だよりやケアプラン更新時に意見を出して頂くよう働きかけている。	新型コロナウイルス感染拡大に伴う面会規制が余儀なくされる中、書面や通信機器を用いた面会が行えるよう環境整備に努めている。面会やケアプラン更新時等ご家族意向が確認できる機会創出を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は会議の場で聞くようにしている。出された意見は管理者から理事長へと上げている。	職員会議や処遇会議を開催し、ご利用者様に関する細かい内容や業務内容に関する昼夜の役割分担などを報告・共有している。必要に応じて、ホーム長が窓口となり、理事長面談を設ける時もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有する資格（介護福祉士、介護支援専門員等）に応じた手当や残業手当が付く。勤務希望や有給申請が出しやすいよう気を付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により町外や法人外の研修の機会も減っている。WEB研修に参加できるよう環境を整えたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流は自粛している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談したり施設を見学して頂くことで少しでも不安が軽減されるよう努めている。入居後は笑顔で接し困ったことや不安に思うことを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時や電話があった時等に要望や不安に思うことを聞いている。入居後は暖家だより等で様子を伝え安心して頂けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスを必要としているか話を聞き、施設で出来る事と出来ない事があることを説明している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自室や洗面所の掃除、洗濯物を干したり、たたんだりといった家事を出来る範囲で手伝って頂き、役割を持って生活できるよう支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会、自宅への外出や外泊が出来ない状況だが、ご利用者様の様子を暖家だよりで報告したり、通話やテレビ電話で関わりを持って頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店舗で髪を切ったり買い物をする支援を続けてきたがコロナ禍で外出や面会が出来なくなっている。収束したら再開したい。	暖家を取り巻く地域の特色もあり、馴染みの人や場所との関係継続が自然に行える環境が整っている。新型コロナウイルス感染拡大前は、ご利用者様の個別的要望に対応して、ドライブに出掛けたりもしていた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめるレクリエーションに参加したり一緒に家事をして頂いている。食後の下膳や洗濯物を干す場合など出来る事と出来ない事を補い合いながら行われている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても同じ地域の住民としての関係は続くため、会えば挨拶したり近況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様同士や職員との会話の中から希望を把握したり、上手く表せない方の場合には行動や表情から汲みとるよう努めている。	ご利用者様お一人おひとりの意向については日々の関わりの中で職員が聞き出している。新しい情報については送りノートを活用して職員間での周知を図っている。新しく入所してくるケースについてはご家族を中心に生活歴や意向の把握、暮らし方の確認を行い、安心した生活を営むことができるように努めている。また、意思表示が困難なご利用者様については、しぐさや表情等、言葉以外の表現方法に着目している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族、在宅のケアマネジャーから生活歴や暮らし方、サービス利用の経過を伺い、ショートステイ利用時の様子は養寿園の職員から聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護支援経過や各種チェック表、送りノートで共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれの担当者がモニタリングし、全員でカンファレンスを行い介護計画を立てている。会議にご家族は出席されないが意見書を提出して頂いている。	介護計画の作成における手順については、日々の介護支援経過記録を基にして、各担当職員が3か月単位での経過記録を作り、職員間で情報共有を図っている。ご利用者様やご家族からは、よくしてもらっているというお言葉はいただいているも、特にこれといった希望や要望は聞かれないことが多いとのことであった。一方、職員からの意見として身体症状のレベル低下が顕著なご利用者様の計画書について、移動の手段を見直したり、食事形態を変更して誤えん防止に努めた計画書変更の例を確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、各種チェック表、申し送りノートを活用し現状把握、共有しながら実践や介護計画の見直しに生かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や行事の際にご家族の送迎を行ったり、島外の病院を受診する際、港まで送迎したり時には病院まで同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との馴染みの関係は築かれており町民の一人として地域に支えられている。ボランティアの受け入れはコロナ禍のため中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は島内に一か所しかなく、入居後もかかりつけ医は変わらない。必要に応じて整形外科や循環器内科等の専門外来を受診している。結果は暖家だよりや電話で報告している。	ご利用者様は入所後もかかりつけの医療機関を変更することなく、関係性を確保したまま安心して生活を送ることができている。受診結果に関するご家族への情報提供については、毎月郵送している「暖家だより」に記して状況を伝えるようにしている。また、急を要するような報告は都度電話等で行って適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師がいないため、体調が変化した場合は直接診療所に連絡し早めに受診している。同法人の看護師とは相談が出来る体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所の医師や看護師から病状や状況、退院の目途についてなど情報を得ており、退院後の注意点等の指示も受けている。島外の医療機関に入院した場合はSWと電話やFAXで連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りや重度化した時の対応、ホームで出来る事と出来ない事があることを説明している。	入所時の契約書説明の際、暖家では常時、医療行為を行う環境にないため、状態が悪化した場合は医療機関の適応になることや、重度化した場合は、特別養護老人ホーム等の選択肢もご家族に説明している。また、ご利用者様が急変した際の緊急時の対応としては、医療機関と24時間365日、連絡可能な体制を整えているとのことであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導でAEDの使用方法や心肺蘇生の方法を学んだ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。地域の方との合同での訓練はコロナ過により中断しているが協力体制は築いている。自主検査チェック表を用いて毎日火気関係のチェックを行い20時23時に戸締りの確認をしている。	火災発生を想定した避難訓練に関しては、人手が薄くなる夜間を想定した訓練を年に2回実施している。また、新型コロナウイルス感染拡大前は同一法人の施設や地域住民とも一緒に訓練を行っていた。一方、自然災害対策に関しては、暖家の立地的に台風が接近した際の対応が充填課題となる。実際に今年に入って台風接近時に避難をしたとのことであった。この教訓を基にして自然災害発生に特化した定期的な訓練を実施することが重要である。	今年に入って台風接近の際、実際に近隣の同一法人の施設へ避難をしたとのことであった。この時の一連の判断基準や動きをベースに「台風接近時の対応手順」を作成されて、今後の訓練の基礎となることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならないよう、ご利用者様の思いをそのまま受け入れ否定しないよう心掛けている。居室へは黙って勝手に入らない。	理事長はご利用者様本位の支援を行う上で、ユマニチュード(認知症のご利用者様の尊厳を守りながら介護する技法のこと)の話も交えつつ、暖家の方向性を職員に示している。身近なことから徹底しようということで、ノックをして部屋に入ることや敬意を表した言葉掛けや言葉使いになっているか。また、入浴や排せつの場面で配慮がなされているか。このような日常の場面での言動を丁寧にやっていく方針であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすい言葉かけや、待つ姿勢で自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間になれば声掛けはしているが、起床や就寝時間、食事の時間など出来る限り一人一人のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方はご本人に任せ、困難な場合はその方らしい服装を職員が選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や地元で採れた野菜や海産物をメニューに取り入れたり、外にテーブルを出し海を眺めながら食事をしたり、楽しめる工夫をしている。ゴマをすり鉢ですったり、下膳したりはご利用者様も行っている。	ご近所の方から野菜の差し入れがあり、その野菜の皮むき等をご利用者様に無理強いすることなく、自然な形で促している。このような下準備をしていると、ご利用者様同士の会話に広がりが出てきて、家庭的な雰囲気になるとのことであった。また「食」を楽しむということ言うと、皆でおやつを作ったり、気候が良い時は暖家の庭で食事やお茶をしたり、職員間で様々なアイデアを出し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月5日に体重測定を行っている。食事や水分の摂取量を記録し、十分な量が摂れているか確認している。低下がみられる時は医師と相談しながら好みの物を個別に用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。ご利用者様の力に応じて見守りや介助を行っている。歯ブラシや口腔ケアスポンジ、デンタルリンス等、状態により個別に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、パターンを把握し声掛けや誘導、オムツ交換をしている。毎朝蒸しタオルでの清拭と下着交換をしている。	ご利用者様のうち、排せつ面の自立について大きく改善したケースはないが、尿臭のするご利用者様に対して、定期的にトイレ誘導するようになって尿臭が減った事例を確認した。暖家では排泄パターンを把握した上で、毎日丁寧に声掛けを行うことで現状維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にお茶、朝食時にヤクルト飲んで頂いている。1日の水分量が1000ml以上になるよう食事以外でもこまめに水分を勧めている。昼食前に歩行訓練や体操を行い便秘の予防に努めている。医師に相談し下剤での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数や時間帯は決まっているが少しでも気持ちよく入浴して頂けるよう浴室や脱衣所の温度を調整したり、入る順番も配慮している。羞恥心に配慮し同性が介助したり、背中側に立つようにしている。入浴剤を変えたり、正月にはゆずを浮かべたり楽しめる工夫もしている。	ご利用者様のペースで入浴できるように、1日3名を目安に入浴介助するようにしている。現在のところ同性介助の希望はないが、柔軟に対応することは可能とのことであった。また入浴拒否傾向にあるご利用者様の関しては、今以上に拒否が強くないように、声かけする職員を変えたり、時間を置いて再度声かけたり、次の日に再度促す等、可能な限りご利用者様の意向に沿う方針であった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具はご自宅から使い慣れた物を持って来て頂いている。日中も自由に自由に休んで頂いているが昼夜逆転しないようレクや日光浴等に声掛けも行っている。室温や明るさを調整し快適に眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめてファイルし、薬の種類や用法・用量がすぐに確認できるようにしている。薬の変更、臨時薬の処方があった場合は申し送りノートにも記入し周知を図り、副作用の注意も喚起している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	亡くなったご家族の写真や御位牌を持って来られた方が毎朝お供えを上げられるよう支援している。日課だったお墓やお寺のお参りはコロナ禍により中止している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は自粛している。一時はドライブも中止していたが感染者数減少に伴い再開した。玄関先で太陽や海風にあたることで閉塞感が少しでも解消できるよう支援している。	コロナ禍以前のように外出活動はできていないが、気候が良い時は暖家から海が見渡せるため、戸外でお茶を飲んだりしながら外気浴を楽しんでいる。また、少人数でのドライブを再開したとのことで、お墓の近くで停車して合掌する等、ご利用お客様の希望を可能な限り叶えるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお金を事務所で保管・管理している。数名の方はご自身で管理し、買い物に出掛けた際はご自身で支払っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時や希望時に電話を掛けたり、TV電話で顔を見ながら会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手すりの消毒、ホールやトイレ、洗面所などこまめに掃除し、清潔や感染予防に努めている。花を飾ったり、クリスマスツリーや雛人形、ご利用様が制作した壁飾りなどを掲示すると見ながら会話が弾み、楽しんで頂けてる様子。	ご利用様は日中のほとんどをほぼホール(共用スペース)で過ごすため、職員は温度や湿度、換気、匂いには特に気を付けているとのことであった。冬になると様々な感染症の流行期に入るため、消毒等も定期的に行っている。暖家のホールは広々としていて開放感があり、壁の一部にご利用様と職員共同で作成した季節の飾り物も存在感があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広く開放的ホールになっており、ソファや椅子に座り気の合う方同士で会話されている。玄関にも椅子やベンチが置いてあり、海や五島の島々を眺められるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具、TV等を持ち込んで頂いている。御位牌やご家族の写真などを飾り、それぞれの部屋が違った雰囲気になっている。	御位牌を自宅から持参したご利用者様は、毎日の日課としてお茶とご飯を職員から準備してもらいお供えしている。パン食時以外はほぼ毎日行っていて、自宅での生活習慣を継続する機会となっている。この他、居心地の良い空間作りの一環として、毎日掃除をして環境を整えている。部屋を間違いやすいご利用者様の部屋の出入り口に「〇〇さん」と紙に書いて貼ったり、「トイレの電気は自動で付いたり消えたりします」と紙に書いて、トイレの度にスイッチを探していたご利用者様にお知らせする等、ご利用者様が環境面で困らないような配慮がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札が掛けてあるが、混乱したり見えにくい場合は居室やトイレの入り口に張り紙をして分かりやすいよう工夫している。		